

巻頭言

近視のお話し

4月1日より眼科診療科長、教授として赴任しました藤澤です。2020年3月末まで、診療科長で勤務しておりましたので、知っていて下さる方もいらっしゃるかと思います。眼科の病気の中でも、多くの方になじみ深いのは近視、医学的な言葉では近視となりますが、それではないでしょうか。そこで、近視のお話をします。

ご紹介患者さんで急いで手術する病気の代表に網膜はく離があります。網膜はく離は、その多くが網膜に裂け目が生じて、そこから網膜が目の奥からはがれる病気で、放置すればほとんど見えなくなってしまう怖い病気です。私も自分の専門分野として、多数の網膜はく離の手術をしてきました。



<眼科 診療科長>

<藤澤 邦見 教授>

この病気がおきやすいのが、近視、特に強度近視です。近視で網膜はく離が何故に生じやすいかというと、近視は目が大きくなって生じるからです。大きくなると、目の裏側を裏打ちしているようにある網膜が、その大きさについていけず、薄くなり、裂けやすくなってしまいます。さらに、強度近視では眼球が“球”の形ではなく、ひょうたんのような形になり変形していることから、なおさら網膜は、はがれやすくなってしまいます。

網膜はく離は、手術での治癒率は90%程度と比較的良好な病気です。ならば、病気になっても手術でいいじゃないかという考えもあるかもしれませんが、30分～2時間はかかる手術ですし、10人に1人は2回目の手術があるということで、とてもなりたくない病気です。後遺症もあります。

強度近視では、網膜の中心部に穴が開いて、中心が見えなくなる黄斑円孔（おうはんえんこう）も起きやすく、この円孔から網膜はく離となると、目の変形と引き延ばされていることで、難治性網膜はく離となりやすいです。じわじわと視力低下が生じることのある網膜分離症という病気も起こりやすいです。

強度近視は、目の血管の病気も引き起こし、眼底（がんてい）で出血やむくみを生じることがあります（近視性脈絡膜新生血管（みゃくらくまくしんせいけっかん））。これは、網膜の中心部に悪い血管が生えてきて、変視（ゆがんで見える状態）を生じたり、出血して大きな視力障害を引き起こします。眼球に注射をして治療していきますが、効果はあるものの、一回で完全に収まることは少なく繰り返しの投与が必要です。月に一回までと決まっていますが、薬代が高く、3割負担では一回3万から5万円ほどかかり、高価です。また、薬が効きにくく、繰り返し注射をしていると、眼球を覆っている膜が弱ってしまい、見えなくなってしまうことがあります。

このように、近視は悪い病気のもとになるもので、世界的には、近視を抑制しようという予防的治療が盛んに行われています。ここではその内容には触れませんが、日本はかなり立ち後れている印象です。

ここにあげた病気の手術や注射は、すべて当眼科で行うことができ、私を含めベテラン医師が在籍しています。ですから、近視から起きる病気の治療も安心して当科で受けて下さい。といっても、難治例になる方もいますし、そもそも病気にならないのが一番良いのですから、近視の強い方は、定期的にクリニックなどで眼底検査などを受けるようにして下さい。早めに分かれば手術しないですむことも多数あります。手術になる方で、検診受けてくれていればなあと思う方が多数います。近視の検診、大事です。怖い近視の話でした。

- P1. 【巻頭言】近視のお話し
- P2～3. 【医学講座コーナー】「うつ」について
- P4. 【お知らせ】春期市民公開講座開催のお知らせ
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6. 【お知らせ】今後のコロナウイルス感染症対策について
- 【編集後記】



【医学講座コーナー】「うつ」について

(メンタルケアセンター 准教授 山田浩樹)

「うつ病」と「うつ状態」

精神医学の世界では、憂うつな気持ちがあることや、気分が落ち込んでいるなどの症状を、抑うつ気分といい、抑うつ気分が強く持続している状態のことを「うつ状態」や「抑うつ状態」という用語で表現することがあります。日常生活では「うつ状態」という言葉の方がよく用いられ、精神医学の世界では「抑うつ状態」という用語を用いることが多いですが、同じ意味を表すと考えていいでしょう。

うつ病とうつ状態の違いは、うつ病は、「うつ病という病気」がうつ状態を引き起こしているのに対して、うつ状態という言葉は、あくまでもその時の「状態」を表すものであり、「病名」ではないことです。

うつ状態は、うつ病以外にも統合失調症、適応障害、認知症など様々な精神疾患で認められます。また精神的な病気だけでなく、心筋梗塞、がん、関節リウマチといった身体の病気でもしばしば認められますし、薬、物質によっても引き起こされる可能性があります。そして日常生活において、はっきりとした原因があって、それに対する正常な反応としてうつ状態になることもあります。



うつ病の診断

我々精神科医がうつ状態の患者さんを診察する場合、うつ病の可能性を念頭に置きますが、うつ病以外の原因がうつ状態を引き起こしている可能性を取り除いたうえで診断する必要があります。

たとえば肺炎であれば呼吸が苦しくなる、発熱などの症状に加え、血液検査データで炎症の数値が上がり、レントゲン写真で肺炎像が映りますので、肺炎の診断を正確に行うことができます。

一方でうつ病をはじめとする精神疾患には、血液検査や画像検査によって診断を確定するための指標がまだ確立していません。精神疾患の診断には、症状の出現している期間や組み合わせによって診断を確定する、症候学的診断というやり方が用いられます。

したがって、診断する前に詳しく情報を収集し、身体的な問題についても必要な検査を行い、他の原因を見逃さないようにする必要があります。これらができないことが確認されたうえで、精神疾患の診断を行います。

診断基準については、米国精神医学会（APA）の発行した「精神疾患の診断・統計マニュアル（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders：DSM）が世界的に広く知られており、現在は第5版であるDSM-5が最新のものとして使われています（表①）。

【医学講座コーナー】「うつ」について

表 1 DSM-5のうつ病診断基準（一部抜粋）（メンタルケアセンター 准教授 山田浩樹）

・以下の症状のうち5つ（またはそれ以上）が2週間の間に存在し、病気になる以前の状態かや昨日からの変化を起こしている。

・これらの症状のうち少なくとも1つは①（抑うつ気分）または②（興味または喜びの消失）である。

- ①ほとんど1日中、ほとんど毎日の抑うつ気分
- ②ほとんど1日中、ほとんど毎日の興味、喜びの著しい減退
- ③いちじるしい体重変化、またはほとんど毎日の食欲の減退・増加
- ④ほとんど毎日の不眠または過眠過多
- ⑤ほとんど毎日の精神運動性の焦燥・制止
- ⑥ほとんど毎日の疲労感、気力減退
- ⑦ほとんど毎日の無価値感、罪責感
- ⑧ほとんど毎日認められる思考力や集中力の減退、決断困難
- ⑨死についての反復思考、反復的な自殺念慮、自殺企画、自殺するためのはっきりとした計画

うつ病と診断されたら

わからないことや、不安なことなどがたくさんあると思いますが、眠れない、食欲がないなど自分で気づきやすい身近な症状から精神科医に相談していただくとよいと思います。我々精神科医も、その改善が患者さんにとって助かることになるという認識を持ち、患者さんとの信頼関係の構築がうつ病治療においてなされるべき根本的なことであることを念頭に置く必要があります。患者さんの気持ちに共感したうえで治療を開始することの重要性が「日本うつ病学会治療ガイドライン」にも明記されています。そのうえで、うつ病の発症に至る脳と環境の関係について精神科医とよく話し合い、悪循環に至る要因を1つずつ解決していくために治療を開始します。

「日本うつ病学会治療ガイドライン」ではDSM-5（表1）に準じて、軽症、中等症、重症といったうつ病の重症度を定義しています。また、すぐに薬、ではなく全てのうつ病患者さんに対して「基礎的介入」という、あらゆる治療の基礎となる治療をすすめています。

基礎的介入の柱の一つは「支持的精神療法」で、患者さんの話に支持的に耳を傾け、苦悩に共感し、共に問題点の整理を行うものです。二つ目は「心理教育」で、現在の症状や起こっていること、予想される改善までの経過、治療の選択肢と特徴などを十分に説明し、当事者も積極的に治療に関われるよう導くことです。うつ病の治療を行うために最も重要な点であり、これなしには質の高い治療を行うことはできません。

この基礎的介入を行いつつ、重症度やその他の症状に合わせて、薬物療法、認知行動療法、電気けいれん療法などの治療法が選択していく必要があります。医学的根拠に基づく治療法の選択については「日本うつ病学会治療ガイドライン」や、患者さんやご家族など、一般の方に向けて本ガイドラインをわかりやすく解説した「当事者・家族のためのわかりやすいうつ病治療ガイド」が出版されていますので、ぜひご参照ください。

コロナ禍の影響もあり、増加の一步をたどっているうつ病は、患者さん個人の生活にとっても、社会にとっても大変損失の大きなものです。ご自身だけで悩まず、気軽に当科を訪ねていただければと思っております。本学の理念の柱の一つである「常に心のこもった病院でありつづける」ことを大切に、患者さんの心に寄り添った治療を提供していきたいと考えています。

2023年度 春期市民公開講座 暮らしと健康



昭和大学
横浜市北部病院

参加費
無料

第1部

前立腺がんってどんな病気？

〈演者〉昭和大学横浜市北部病院
泌尿器科 教授 富士 幸藏



第2部

食は医なり

〈演者〉昭和大学横浜市北部病院
管理栄養士 中田 美江



〈司会〉

昭和大学横浜市北部病院 眼科 教授 藤澤邦見

開催日時

5月20日（土）
15時00分～

オンライン開催
（LIVE配信、予約不要）

※Zoomを使用して配信します。
当日の参加に必要なミーティングID等は、
当院ホームページに掲載しています。
右記QRコードからZOOMにアクセスできます。



主催

昭和大学横浜市北部病院
TEL045-949-7000 FAX045-949-7117

後援

公益社団法人 横浜市病院協会

患者さんからのご意見・ご要望

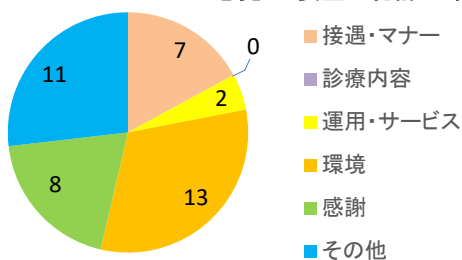
日々患者さんより、ご意見箱にいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に、改善策を掲載させていただきました。

掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

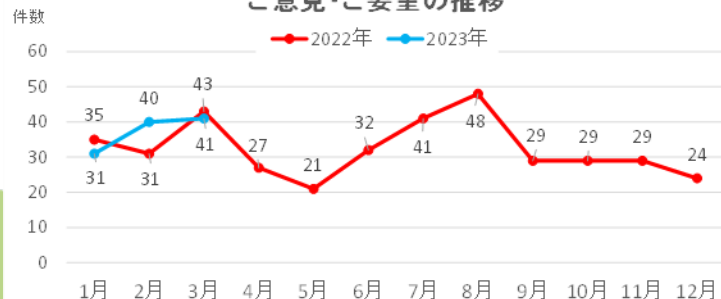
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
身障者用駐車スペースに、身障者以外の車が駐車している。 身障者マーク付けるべき。	ご意見ありがとうございます。 当院駐車場の身障者用駐車スペースは、足を怪我されている患者さんやお年寄りの方にもご利用いただいております。ご理解の程よろしくお願いいたします。 また、既に身障者用駐車スペースの拡張工事を行っております。ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。 (回答部署：管理課)
NICU・GCUの面会制限をもっと緩和してほしい。ワクチンの接種、未接種で差別されている気分です。このご時世、ワクチンを打っていてもコロナになる人はいるし、同じ横浜市内でもそこまで面会制限をしなくてもやれている病院がある中で厳しすぎだと思います。子供と会えない時間が長い方が、母子ともにメンタル面でどうなのでしょう。とても不満です。	ご意見ありがとうございます。 当院では、現在も院内での新型コロナウイルス感染拡大予防のために、原則、面会禁止としております（5月1日現在）。お子様が出生直後の入院となりご心配の中、さらなるご心労をおかけして申し訳ありません。 面会の制限内容については、NICU(新生児集中治療室)・GCU(新生児回復治療室)の特性と感染症の流行状況とを見ながら随時、検討を行っております。2023年2月20日から、面会におけるワクチン接種の有無を要件とすることを解除しました。 今後も感染症の流行状況に応じて要件の強化・緩和を検討して対応してまいりますので、ご理解ご協力くださいますようお願い致します。 (回答部署：看護部・感染管理室)

2023年3月
ご意見箱に投函された
ご意見・ご要望の総計41件



2022年・2023年
ご意見・ご要望の推移



【お知らせ】今後のコロナウイルス感染症対策について

日頃より、新型コロナウイルス感染症感染対策へのご協力いただき誠にありがとうございます。
この度、政府発表の新型コロナウイルス感染症 5 類引下げに伴い、これまで実施してまいりました感染対策による制限を、段階的に緩和する予定です。

既に 4 月 1 日より中央棟駐車場及び中央棟西口入口を開放しておりますが、面会制限や分娩立会なども併せて緩和に向け検討しておりますので、当院からの情報発信をお待ちください。

患者さん、ご家族に置かれましては、これまで長期間に及ぶご協力ありがとうございました。今後とも引き続き、よろしくお願いいたします。

※今後の感染状況により変更となる場合がございます。何卒ご容赦ください。

病院内では引き続きマスクの着用をお願いしております。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

周囲に感染を広げないために

マスクを着用しましょう



受診時など医療機関や高齢者施設を訪問する時

ご自身を感染から守る為に

マスクの着用が効果的



重症化リスクの高い方が

感染拡大時に混雑した場所に行く時

編集後記

5 月となり青葉の美しい季節になってきました。世界中の人々を苦しめたコロナ禍も早 3 年が過ぎましたが、皆様もご存知の通りゴールデンウィーク明けには感染症法上の位置付けが 2 類相当から 5 類へと移行します。新型コロナ感染症自体は本質的には変わりはありませんが、この 3 年で対処に慣れて来た事も多くあり、例えば小児科では先駆けて父母に限り面会制限が徐々に緩和されるなど、運用の変更も徐々に行っています。

非常に苦しい 3 年間でしたが、それでも我々大人にとっての 3 年間と子どもたちにとっての 3 年間は違います。部活動や行事、ワイワイ楽しい給食の時間など、コロナ禍で一生に一度の青春時代が我慢の連続だった事。マスクを外した友達の素顔をほとんど知らない事。あまりに多くの犠牲がありました。子どもたちにとっての大切な時間を取り戻せるよう頑張っ社会を作っていく事が我々大人たちの使命ではないでしょうか。

(小児科 助教 岩久貴志)

北部病院だより 第 179 号
2023 年 5 月 1 日発行

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000 (代表)

URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。